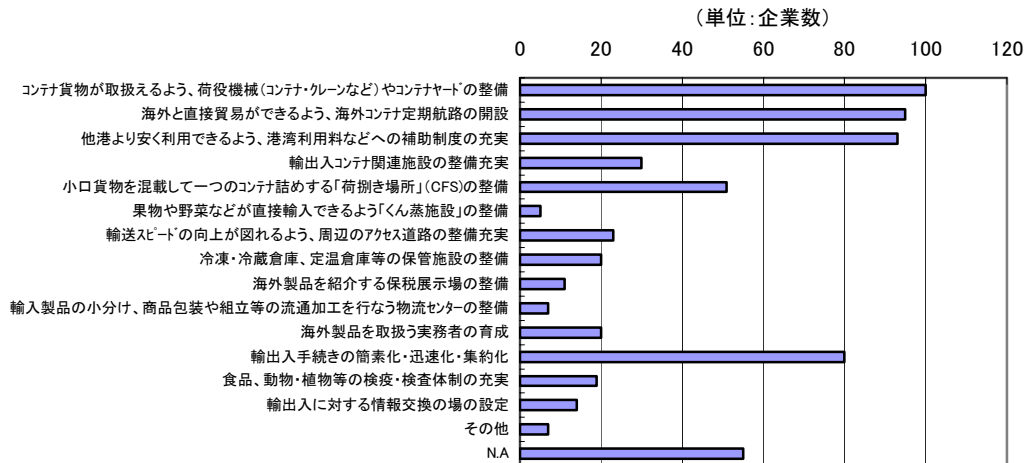


(16) 青森港に必要な施設・機能・サービス

国際貿易港として青森港を利用するためには、今後、どのような施設、機能、サービスが必要と思われますかの問いに対し、「コンテナ貨物が取扱えるよう、荷役機械やコンテナヤードの整備」100社(38.5%)、「海外と直接貿易ができるよう、海外コンテナ定期航路の開設」95社(36.5%)、「他港より安く利用できるよう港湾利用料などへの補助制度の充実」93社(35.8%)、「輸出入手続きの簡素化・迅速化・集約化」80社(30.8%)、「小口貨物を混載して一つのコンテナ詰めする「荷捌き場所」の整備」51社(19.6%)、「輸出入コンテナ関連施設の整備充実」30社(11.5%)などの順である。コンテナターミナル等の施設、航路、安価な利用料金と手続きの簡素化の4項目への要請が大きい。

青森港背後圏企業についても、ほぼ同様の傾向を示している。

青森港に必要な施設・機能・サービス



	企業数		背後圏		
		%		%	
1	コンテナ貨物が取扱えるよう、荷役機械(コンテナ・クレーンなど)やコンテナヤードの整備	100	38.5%	83	31.9%
2	海外と直接貿易ができるよう、海外コンテナ定期航路の開設	95	36.5%	79	30.4%
3	他港より安く利用できるよう、港湾利用料などへの補助制度の充実	93	35.8%	79	30.4%
4	輸出入コンテナ関連施設の整備充実	30	11.5%	27	10.4%
5	小口貨物を混載して一つのコンテナ詰めする「荷捌き場所」(CFS)の整備	51	19.6%	44	16.9%
6	果物や野菜などが直接輸入できるよう「くん蒸施設」の整備	5	1.9%	5	1.9%
7	輸送スピードの向上が図れるよう、周辺のアクセス道路の整備充実	23	8.8%	15	5.7%
8	冷凍・冷蔵倉庫、定温倉庫等の保管施設の整備	20	7.7%	17	6.5%
9	海外製品を紹介する保税展示場の整備	11	4.2%	10	3.8%
10	輸入製品の小分け、商品包装や組立等の流通加工を行なう物流センターの整備	7	2.7%	7	2.7%
11	海外製品を取扱う実務者の育成	20	7.7%	19	7.3%
12	輸出入手続きの簡素化・迅速化・集約化	80	30.8%	71	27.3%
13	食品・動物・植物等の検査・検査体制の充実	19	7.3%	19	7.3%
14	輸出入に対する情報交換の場の設定	14	5.4%	14	5.4%
15	その他	7	2.7%	2	0.8%
	NA	55	21.2%	43	26.5%
	計	260	100.0%	172	66.2%

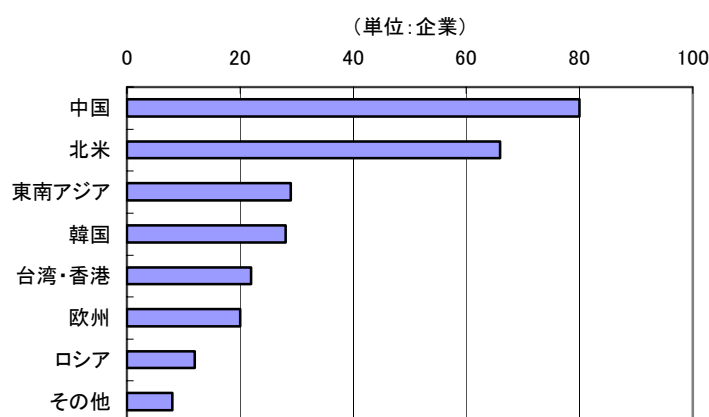
複数回答

(17) 青森港の希望航路

「青森港と結ぶコンテナ定期航路としてどの方面の航路を希望しますか」の問いに対しては156社が回答している。希望航路は中国航路80社が最も多く、次いで北米航路66社、東南アジア航路29社、韓国航路28社、台湾・香港航路22社、欧州航路20社の順である。

青森港背後圏企業についても、ほぼ同様の傾向を示しているが、韓国航路が3番目となっている。

青森港の希望航路



全回答

航路	企業	国、港湾名
1 中国	80	大連(9)、上海(8)、廈門(5)、青島(4)
2 北米	66	アメリカ(38)、カナダ(19)
3 東南アジア	29	シンガポール(10)、タイ(5)、ベトナム(3)
4 韓国	28	釜山(7)、仁川(2)
5 台湾・香港	22	台湾(13)、香港(9)
6 欧州	20	イギリス(5)、イタリア(4)
7 ロシア	12	
8 その他	8	ニュージーランド(2)
計	156	

背後圏企業

航路	企業	国、港湾名
1 中国	48	大連(5)、上海(4)、廈門(3)、天津(2)
2 北米	30	アメリカ(20)、カナダ(9)
3 東南アジア	12	シンガポール(5)、タイ(2)、ベトナム(2)
4 韓国	15	釜山(4)
5 台湾・香港	14	台湾(10)、香港(4)
6 欧州	9	イギリス(4)、北欧(3)
7 ロシア	5	
8 その他	3	
計	136	

複数回答

(18) 青森港コンテナ化に関する意見・要望

青森港コンテナ化に関する意見・要望の自由回答欄に記入いただいた企業は81社である。主な意見・要望はコンテナ施設の利用料金の低減などコストの低減希望が最も多く16社、関連施設の利便性の向上やスピードアップ（時間短縮）への要望が15社、青森港の国際化、コンテナ化の早期実現14社、港湾振興活動、情報提供の積極的推進6社などであり、一方、八戸港と青森港の両立は無理あるいは八戸港の充実を図るべきは9社あった。

青森港コンテナ化に関する意見・要望

	意見・要望	企業数	背後圏
1	青森港の国際化、コンテナ化の早期実現	14	13
2	港湾振興活動、情報提供の積極的推進	6	4
3	港湾施設、関連施設等のコストの低減	16	10
4	利便性、時間短縮の実現 (港湾通関、混載、税関、検疫、上屋・倉庫物流センターの充実)	15	13
5	八戸港と青森港の両立は無理	9	5
6	中国航路の誘致	4	3
7	PFI（民の参加）の導入	3	3
8	冬期コンテナヤードの除雪	1	1

## 5. アンケート調査のまとめ

第1次、第2次アンケート調査の結果より得られた青森港の特徴・課題等についてまとめると、以下のようになる。

- ・背後圏の荷主の約4割が海外との取引を行っている。
- ・さらにそのうちの6割弱は海上コンテナによる取引を行っている。
- ・アンケート調査によって把握できた輸出入コンテナ貨物量は、輸出497TEU、輸入2,877TEUで、輸出入比率が輸出：輸入で約1：6と、著しい輸入超過である。
- ・品目は、輸出では農水産品、軽工業品、輸入では雑工業品、林産品等が多い。
- ・貿易相手国は、輸出入ともに中国が最も多く、その他にも台湾、香港、韓国など、アジア地域とのつながりが深い。
- ・出荷頻度、ロットについては、月1～2回の出入荷で1回当りはコンテナ1個程度という比較的小口の荷主が多い。
- ・他港の利用理由及び青森港への要望等をみると、輸出入利用港湾としての必要な点としては、定期航路就航、安価な物流コスト、短いリードタイムが挙げられている。

これらの課題・特徴については、次章におけるヒアリング調査も踏まえたうえで、第7章以降でさらに考察する。

また、本アンケート調査において得られた貨物の数量的なデータについては、全数調査ではないため定量的な見方はできない。これらを補足するため、次章においてヒアリング調査を行っているが、今後、さらに詳細な貨物量データを把握するには、地道な企業訪問を中心とした継続的なポートセールス活動を行っていくとともに、青森港の国際化へ向けた官側の熱意を伝えていくことが必要である。